

令和 7 年 8 月 20 日

令和 6 年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
神石インターナショナルスクール	広島県教育委員会	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
神石インターナショナルスクール	https://jinis.jp/assessment/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
神石インターナショナルスクール	https://jinis.jp/assessment/	https://jinis.jp/assessment/

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

保護者に対しては、毎月の学校だより、週一回の SNS、子どもの学習成果等を共有するデジタルポートフォリオを使用して、本校カリキュラムへの理解を深めている。担任だけではなく、すべての教職員が一人一人の子供の様子を伝えることができるため、また、前年度から引き続き近隣住民や町内の NPO、施設等と連携をとる授業の実施し、毎年の恒例行事となり、子供たちも地域の人を認識して関わっている。また、昨年度から導入した Parents Week(学校公開)では、子供たちの普段の生活や学習を見てもらう機会を持つことができ、保護者の本校に関する理解も進んだ。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、日本初の小学校全寮制インターナショナルスクールとして、世界で活躍する小学校段階におけるグローバル人材育成のためのカリキュラムを実施している。英語を学ぶだけでなく、理科や社会、算数の一部を英語で学んでいる。6年目になり、さらに IPC と学習指導要領の統合を目指し、同時に ICA(International Curriculum Association)の IPC(International Primary Curriculum)のクレディテーション校として認定されるよう学校行事、学校掲示物、施設、教職員の研修のあり方等を含めて学校全体で取り組んでいる。令和 7 年 11 月には認定校としての審査が行われる予定である。今後の課題は、教職員の質の保持・向上のための研修の計画と実施を続ける。また、JINIS という学校文化が出来上がりつつあるので、これを保持できる人材の確保(雇用とトレーニングのバランス)が課題となる。また、英語だけを教えるインターナショナルスクールではなく、日本語と英語のカリキュラムを両立させているバイリンガルスクールとしてのインターナショナルスクールであることを周囲に理解していく活動が必要となってくる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

JINIS では、日本の学校教育法や学習指導要領に示される「自立した個人の育成」を教育目標として重視している。その理念に基づき、寮生活を通して自立心や自主的な学びの意欲を育むカリキュラムを実施している。このカリキュラムは、学生が自ら考え、選択し、行動する力を養うことを目的としており、授業での学びだけでなく、生活全体を通して学ぶ力を培う JINIS 独自の教育環境を活用している。

さらに、自然豊かな環境に囲まれた JINIS では、季節ごとに変わる景色や新鮮な空気の中で活動することができ、心身の健康的な成長を促進する。こうした体験は学習指導要領が求める「豊かな心」と「健康な体」の育成にも直結しており、環境との調和を意識した生活態度を育むことができる。

また、JINIS は国際的な視野の育成も重視している。世界中から集まる多様な文化や価値観を尊重し、異なる背景を持つ人々と交流する機会を通じて、グローバル社会で活躍できる力を養う。これにより、学生は自分のアイデンティティを大切にしながら、世界とのつながりを深め、広い視野で物事を考える力を身につけることが可能である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

● カリキュラムの充実

課題：児童が英語を学問的なツールとしてのみ捉える傾向があり、生活言語として自然に使う場面をさらに増やす必要がある。

展望：学習指導要領と IPC を統合したカリキュラムを活用し、英語を日常的に使える環境をさらに拡充することで、思考力・判断力・表現力をより一層育成する。

● 学校文化の形成

課題：異文化間のコミュニケーションの重要性は理解されつつあるが、児童に示す模範行動の一貫性や全員への浸透が課題である。

展望：インターナショナル教員と日本人教員の協働をさらに強化し、多様な価値観や文化を尊重する姿勢を児

童に日常的に示すことで、グローバルな視野を持つ社会の形成者を育成する。

● 人材確保

課題：JINISの独自性や教育理念を十分に理解していない応募者がいることがあり、適切な人材確保が課題となる。

展望：採用プロセスと育成制度を改善し、学校の魅力や教育環境を正確に伝える情報発信を強化することで、理念に共感する優れた人材を安定的に確保する。

● 勤務環境の充実

課題：新任教員が学校文化や教育理念を理解するまでに時間を要することがあり、教育の一貫性に影響する場合がある。

展望：新任教員への支援をさらに充実させ、教職員が安心して働ける環境を整備することで、人員の入れ替わりがあっても教育の質を維持できる基盤を強化する。